

# 『子どもの名づけの由来から育みたい非認知能力を考えよう』 学習の進め方

対象 : 4～6歳児を子育て中の保護者3～20名

時間 : 30～45分程度

ねらい	「子どもの名前の由来」「どんな子に育ててほしいか」を振り返り、保護者が子どもに望む姿が「非認知能力」に重なることに気付くことで、非認知能力を身近に感じ、伸ばしていこうという気持ちを育む。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 非認知能力を知らない保護者にとっても考えやすい「由来」(子どもに望む姿)というテーマのワークを通じて、非認知能力を身近に感じることができるようになる。</li> <li>○ 「由来」がないという保護者は、「どんな子に育ててほしいと思うか」について考えることができるようにする。</li> <li>○ 非認知能力を育む方法については資料を使って説明する程度にとどめ、詳しくは研修で実施することを伝える。</li> </ul>		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。</li> <li>○ ワークシート      ○ 資料      ○ 筆記用具      ○ 時計      ○ 名札など</li> </ul>		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
<b>導入</b> 5分	<b>ワークの趣旨説明</b> <b>○アイスブレイク</b> ・簡単な交流・自己紹介など。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ねらい、流れ等についての説明</li> <li>◇ 3つの約束を守るように周知する。</li> <li>◇ 参加者の緊張をほぐす</li> </ul>	名札 3つの約束
<b>展開</b> 15分 ～20分	<b>ワーク1</b> ① ②③ ・エピソードを読む。 ・自分の子どもの名づけの由来や、どんな子に育ててほしいかという想いを書く。また、今の子ども様子も書き込む。 ・グループをつくり、書いたことを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ お子さんが生まれたときのことや、これまでの子どもの成長などを振り返ることで、生まれたころの子どもへの願いや思いを想起させる。</li> <li>◇ 記入したことを参加者同士で共有し、話の中で視野を広げる。</li> <li>◇ 今の子どもの状態を振り返ることで、参加者同士の対話・共感が生まれるようにする。</li> <li>※ 由来がないという参加者には、「どんな子に育ててほしいと思うか」を考えてもらう。</li> </ul>	ワークシート
5分 ～10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料紹介 非認知能力って何だろう(資料1～3)</li> <li>・非認知能力について基礎的な内容を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 参加者が書いた子どもへの想いが「非認知能力」であることを伝えてから資料を紹介する。</li> <li>◇ ここでは、「非認知能力」の基礎的なことを伝える程度にとどめる。</li> <li>◇ 「非認知能力」を伸ばしていくためには、<u>プロセスを重視することの大切さ</u>を伝え、就学前は特に大人の関わりが大切であることに気づくようにする。</li> </ul>	資料1～3
<b>まとめ</b> 5分 ～10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>振り返り・まとめ</b></li> <li><b>ワーク2</b></li> <li>・ワークを通じての気づきや感想を「振り返り」に書き込む。</li> <li>・グループで感想を話し合う。</li> <li>・時間があれば全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 話し合いの中で出た印象に残ったことや思ったことをワークシートに書き込むことで活動を振り返り、自分自身の意識の変化や新たな気づきを認識し、実践意欲を高めることができるようにする。</li> <li>◇ さらに学びたい方のために、「非認知能力レンズ」</li> </ul>	ワークシート  研修のチラシ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ さらに学びたい方のために、「非認知能力レンズ」研修のチラシを配り、情報提供する。</li> </ul>	